島嶼学概論Ⅱレポート

鹿児島大学大学院　農学研究科　生物生産学専攻
修士１年　3412810064　熊本　将

①概要

人口、面積ともに十島村の中で最大の島。島の中北部には標高 979m の御岳がそびえたつ。内陸は平地が広がり、鹿児島県天然記念物のトカラウマが放牧されている。トカラウマは小型の在来種で、現在トカラ列島では中之島だけで飼育されている。道端には‘島バナナ’が生えているが、それぞれ所有者がいるため、勝手に持ち帰ることはできない。また、水田ではタイモを生産している。

②現地の人の話

1）平泉さん（島の畜産）

島での畜産の問題点は獣医師がいないことである。また、出荷する際も市場まで輸送しなくてはならないため、本土で畜産をしている人より手間がかかる。

飼育の面では様々な工夫がある。食欲を増進させるためにビールを飲ませたりするなど、試行錯誤している。しかし、急激な体重の増加は肉質を悪くすることから、餌やりは慎重に行う必要がある。

より良い品質の肉を生産するために、優秀な種牛の存在は必須である。母親と父親では、母親の血統の方が重要であり、‘ゆりしげ’という血統が母親として優れている。

2）古橋さん（I ターン者としての島の生活）

漁を行うということは、一定の期間集中的に対照としている獲物をとることである。そのため漁にでない日もあるが、その分体力を維持するために休日は体を鍛えることが非常に重要である。古橋さんが漁の対照としているキハダマグロは、1 日約 30 本釣り上げる。釣り上げた後は、血抜き→頭をしめる→神経にワイヤーを入れる（人間でいう眉間の辺り）の動作を行うことで鮮度維持を行う。また、急速に冷凍することでも、鮮度維持を行うことができる。

漁は試行錯誤をくり返し、最適な方法を見つけ出す必要がある。例えば、キハダマグロの場合、魚をまるごと一匹針につけるのではなく、切り身の状態の方が釣れる。その他にも、針の数を増やし獲物がかかる可能性を増やすなど多くの工夫がされていた。

3）手塚なつこ先生（島の医療）

中之島で最も問題になっていることは、医師がいないということだ。看護師ができる治療は限られている。例えば傷口が大きく開き縫わないといけない状態であっても、縫うという行為が医療行為にあたるため、テープで傷口を閉じる程度の治療しか行うことができない。もし看護師が医療行為を行った場合、看護師の免許を剥奪される。患者が

治療を求めても治療ができないというのは、患者側からしても看護師側からしてももどかしいことである。このように島では医師がおらず、看護師だけがいる場合もある。こうした問題を解決するためにも看護師の免許でできる応急処置をもう少し増やすべきである。

③感想

私は奄美大島の出身で、島に対して親近感がありました。また、大学の調査で屋久島にも度々行っています。しかし、今回中之島へ行って、島に対するイメージが少し変わりました。私が今まで行った屋久島、種子島、奄美大島は、私が考えるに島ではなく‘大陸’でした。奄美大島などは確かに、鹿児島県本土よりはスーパー、病院、その他のレジャー施設などの数は劣りますが、今回行った中之島と比べると十分過ぎるほどだと思いました。しかし、中之島には他の島では見ることのできないものがありました。あまり知られていない景色や風景、また、ここでしか見ることのできない動物を見ることができます。これは、他の島では体験することはできない貴重なものだと感じました。

今回中之島へ行って、もし自分がここに住んだらどんな感じなのだろうかと考えてみました。私はどちらかというと、都会より田舎に住んで農業をしたい方なので、中之島のような島に住めるのではないかと当初考えていました。しかし、今回島の人の話を聞いて、医師がいる病院がないというのを知り、やはり島に住むというのは難しいと思いました。自分が通っている歯医者、眼科がない場所で生活するのは厳しいと思いました。

今回、島の人の話を聞いて、島での仕事を生き甲斐にしている方が多いと感じました。毎日行う仕事を生き甲斐にするというのは本当に好きじゃないとできないことだと思います。

私は、今回この講義を受講して中之島へ行けて本当に良かったと思っています。行くことによって、他の島ではない問題が少し分かったような気がします。島の方は皆さん優しく、丁寧に対応してくださるのだなという印象でした。島でお世話になった方、2日間本当にありがとうございました。